

ちょっと素敵な話
No.8

仕事を続けてこられた理由

「この仕事は自分にとって天職と思う。」とよく話の中で言います。

私は専門学校を卒業し、すぐに福成会へ就職しました。まさか受かるとは思った反面、ここに運命を感じたことも事実です。

入社当初、新人の私は分からないままに突っ走りました。現在とは全く違う制度の中、「利用者さんにとって良い支援とは？」と考えました。そして先輩のアドバイスを基に、自分の道を見つける旅に出ました。

少しずつ制度が変わる中で、四苦八苦したことを覚えていきます（今もなのかも知れませんが）。大きな壁にぶち当たったことや、小さな壁につまずいたこともあります。何もかも全部うまくいくことはない、でもこの仕事を続けたい、私にとってはこの仕事しかないということも実感しました。

自分で言うのも何ですが、私はゆっくりのんびり成長していくタイプの人間です。立ち止まることも多々あります。後ろを振り返ることもあります。そんな私を急か

す人は今の今までいませんでした。「自分にとって天職」というだけではなく、温かく見守り、背中を押して、ゆっくり行こうと歩幅を合わせてくれる同僚、アドバイスをくれ、引っ張ってくれる先輩がいたおかげで、今も福成会にいるのかも知れません。

私は福成会にある六か所の通所事業所のうち、三か所を経験させていただきました。この異動を心から良かったなと思えることがありました。異動と聞くと違った環境でまたゼロからのスタートとなり、職員や利用者さん、家族さんとの関係作りが大変だと感じ、マイナスのイメージを抱かれるかも知れません。

同じ法人であっても、それぞれの事業所で色があります。その色に合わせることで、その色に染まることは安易ではありませんが、違った色を知ることによって自分に合ったりすることも多いのです。勉強になることも多く、今までの自分を振り返る機会を作ってくれることも多々あります。それによって成長できるのです。やりがいを感じ

じるのです。そして一番良いことは、たくさんの利用者さん、家族さんと知り合えること、利用者さんや家族さんを通じて、たくさん教えてもらえることがあります。愛を感じることがあります。そんな貴重な体験をさせてもらえて、本当に良かったと思っています。

「新しい出会いがあれば、別れもある。」一度目の異動のときに、複雑な思いを感じたことがあります。しかし、利用者さんや家族さんの愛は異動しても終わることが無かったです。

毎日会わなくなっても、たまにお会いするときには名前を呼び、話しかけて下さる利用者さん、近くに来て触れて下さる利用者さん、私の姿を探して下さいる利用者さん、笑顔を見せて下さる利用者さん、手を差し伸べて下さる利用者さん…。

全部、全部、今も続いている利用者さんからの愛です。そんな愛を受け取って、「また頑張る！」という気持ちになる私がいいます。仕事を続けてきて良かったと思っ
う私がいいます。

家族さんへ異動を伝えたとき……

「行かないで」

「戻ってきてね」

「ありがとう」

異動先では、

「来てくれてありがとう」

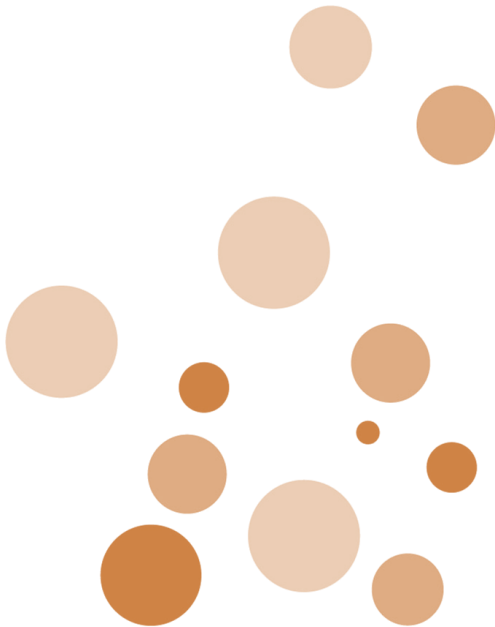
「来てくれて良かった」

「ずっといてね」

という言葉を送りました。

こんなうれしい出会いと別れ

全部、全部、今も続いている家族さんからの愛です。私はそんな「愛」を受け取って成長しています。



ゆっくりのんびりな成長でもいいじゃないですか。利用者さんや家族さんからの愛を受け取るために、今できることを一生懸命する、そして成長できるのではないかと思います。愛をもらってばかりではいけないと感じ、それが自然と良い支援に変わっていくのだと思っています。

何度言っても足りませんが、この仕事を続けてきて良かったと心から思っています。昔も今も、この仕事を天職だと思っています。もちろん今まですべて、まっすぐなルールに乗ることが出来たとは思っていません。色々な経験を重ね、利用者さんや家族さん、同僚、先輩、関係者のすべての人と歩んで来た結果だと思っています。支えがあつての私だと思っています。

これからもずっと、こんな私を見てみたいなと思います。また、見てもらいたいなと思っています。